

貧困・格差・虐待の連鎖を乗り越える教育アプローチの研究開発と普及

自分も相手も大切にする方法を学ぶ、 「『生きる』教育」



写真提供 田島中学校(現・田島南小中一貫校)

課題・背景

日本において貧困状態にある子どもは9人に1人、ひとり親世帯となると2人に1人にのぼります(2021年時点)。貧困は家庭での虐待リスクを高めます。また、虐待を受けた子どもたちは発達・学業達成にも困難をきたし、大人になっても悪影響が続く傾向が見られます。こうした負の連鎖を断ち切る有効な手段の一つが、教育です。特に学校は、授業などを通じて子どもたちをエンパワーメントすることで負の連鎖からの脱却に向けて後押しする力を持っています。一方で学校も、いじめや暴力行為、不登校児童生徒の増加など多くの課題を抱えており、安全・安心の場づくりが喫緊の課題となっています。

取り組むアプローチ

本プロジェクトでは、「『生きる』教育」によって負の連鎖を断ち切ることを目指します。「『生きる』教育」は、子どもたちが貧困や格差、虐待といった人生の困難を乗り越えるために必要な知識や価値観を身につけるための教育プログラムです。大阪市立生野南小学校(現・田島南小中一貫校)で独自に開発・実践されました。「『生きる』教育」の核心は「自分も相手も大切にする」とであり、学校を安全・安心な場とするために有効な教育アプローチとも言えます。本プロジェクトでは、「『生きる』教育」の重要性を社会に伝え、普及に努めます。具体的には、貧困・格差・虐待の負の連鎖を断ち切る教育の重要性を裏付ける基礎研究と、「『生きる』教育」を実践したい方々に向けた研修会の開催や指導案・教材の提供、希望する学校への伴走支援、さらには新たなプログラム開発といった、実践者を支える取り組みを進めています。

プロジェクト代表



田島南小中一貫校(元・生野南小学校)において「『生きる』教育」を受けた子どもたちは、支配にも依存にも陥らない人間関係のつくり方を学び、お互いを支え合いながら豊かに自己形成を図っていく力を身につけています。「『生きる』教育」は、困難の中にいる子どもたちのみならず、すべての子どもたち、また大人にとっても有意義な教育プログラムだと確信しています。「『生きる』教育」の実践を広げることで、人々が幸せに生きていける社会変革のムーブメントを生み出していきたいと思っています。

西岡 加名恵 京都大学大学院教育学研究科 教授



困難を抱える子どもに対して、先生や学校が与える影響には可能性があると思っています。生野南小学校(現・田島南小中一貫校)では、先生方が目の前にいる子どもをなんとか支えたいという動機から、専門家の支援と共感を受けながら、「『生きる』教育」が生まれました。子どもたちから学び、新しい学びを創ることは、先生という職業の本質的な魅力です。学校現場から、先生の挑戦を増やすために必要なことは何か、実践への伴走を通じて明らかにし、それぞれの学校独自の「『生きる』教育」が全国で生まれる状況を作りたいです。

山本 尚毅 日本総合研究所 創発戦略センター インキュベーションプロデューサー

プロジェクト
ページ

